

2025年度 地域脱炭素化に向けた大学における環境人材育成の検討会

目的

地域脱炭素化及びそれを通じた地方創生には、地域でそれをリードできる人材（環境人材、グリーン人材、GX 人材等）の育成が求められ、実際に多くの大学等において、それに応じた学部や学科が設けられてきている。そのような人材には、エネルギー管理等の専門家だけでなく、その専門家と連携し、地域関係者の意見を吸い上げ、その具体化に向けた計画策定や事業化を支援できる地域連携型の人材も含まれる。それには関係者との調整や合意形成のスキル（コミュニケーション力、巻き込み力、ファシリテーション力等）が必要となる。これらの実践的な人材育成に向け、大学にはそれに関する環境・経済・社会・技術などを横断する学際的な教育だけでなく、実際の地域課題をテーマにした PBL（課題解決型学習）や、地域での事業創出や起業を視野に入れた学習機会の提供も求められる。また、そのような人材層を厚くしていくには、そのような人材の学習成果等を客観的に評価する仕組みや、地域での就職先や受け入れ体制の整備も必要となる。本検討会（全6回）ではそれら一連の取組の推進に必要な施策等を整理する。

第5回検討会

日時：2025年10月10日（金）10:00～12:00

場所：IGES 東京サステイナビリティフォーラム（東京都港区西新橋 1-14-2 新橋 SY ビル 4F）

対面とオンライン

（参加登録リンク：https://iges-jp.zoom.us/webinar/register/WN_fcJ9GUb1QB-Fkh3rzp6A）

テーマ：環境人材育成に向けた提案の各大学での実施可能性、それを後押しするための施策等

進行： 10:00～10:10 参加者自己紹介、第1～4回検討会での主な議論の内容（事務局）
10:10～10:40 招聘メンバーからの話題提供（各15分：新学部の設立状況、環境人材育成の方針、これまでの人材育成の成果等）
10:40～12:00 意見交換

検討会メンバー：

コアメンバー

岡山大学 理事（デジタルトランスフォーメーション・グリーントランスフォーメーション担当）・上席副学長 阿部 匡伸氏*

法政大学 社会学部 教授／信州大学 グリーン社会協創機構 特任教授 茅野 恒秀氏*

千葉商科大学 人間社会学部 教授 田中 信一郎氏（オンライン参加）

立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 教授 永野 聡氏

*カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション・地域ゼロカーボン WG の幹事校及び前幹事校

招聘メンバー

龍谷大学 副学長、政策学部 政策学科 教授 深尾 昌峰氏

立教大学 環境学部開設準備室 / 社会デザイン研究科 教授 二ノ宮 リム さち氏

関連省庁

環境省 総合政策課 環境教育推進室長 黒部 一隆氏

同 大臣官房 地域政策課 地域循環共生圏推進室

文部科学省 高等教育局 地域大学振興課 地域大学振興室長 石川 雅史氏

経済産業省 イノベーション・環境局 大学連携推進室 室長補佐 小笠原 憲二氏

これまでの招聘メンバーと今後の予定

第1回（5月23日、東京）

一般社団法人徳島地域エネルギー 事務局長 豊岡 和美氏

株式会社丹後王国ブルワリー 代表取締役社長 中川 正樹氏

おひさま進歩エネルギー株式会社 取締役 蓬田 裕一氏

第2回（6月6日、東京）

飛騨高山小水力発電株式会社 代表取締役、一般社団法人 飛騨高山大学設立基金 代表理事 井上 博成氏

市民エネルギーちば株式会社 代表取締役、株式会社 TERRA 代表取締役 東 光弘氏

千葉エコ・エネルギー株式会社 代表取締役 馬上 丈司氏

第3回（7月15日、東京）

株式会社パソナサステナビリティ 代表取締役社長 石田 正則氏

私立 神山まるとと高等専門学校 デザイン・エンジニアリング学科 准教授 / 徳島大学 人と地域共創センター 客員准教授 佐野 淳也氏

株式会社風とつばさ 代表取締役・コンサルタント 水谷 衣里氏

第4回（8月30日、北九州市）

地域ゼロカーボン WG の北九州市視察参加者及び北九州市立大学関係者との意見交換

第6回（11月4日（火）15-17時、IGES 東京サステナビリティフォーラム（予定））

テーマ：環境人材育成に向けた提案の各大学での実施可能性、それを後押しするための施策等

千葉大学大学院 社会科学研究院 教授 倉阪 秀史氏

検討会とりまとめ

12月上旬：とりまとめドラフト

12月下旬～1月：とりまとめ最終版

第1～4回検討会で議論した主な内容

検討会の対象スコープ

- 地域脱炭素化及びそれを通じた持続可能な地域づくりには、エネルギー管理等の**専門人材**や地域で事業創出できる傑出した人材（**リーダー人材**）だけでなく、地域関係者との調整や合意形成ができる**地域連携型の人材（コーディネート人材）**も必要。そのような**人材層の厚みの確保（すそ野の拡大）**が必要。

大学に求められる教育の方向性

- 地域課題の解決や地域資源を活用したビジネスの創出（それは総合芸術に例えられる）には、環境・経済・社会・技術などの**分野横断的な学び**（学際的な教育）が効果的。また実際の地域課題をテーマにした PBL（課題解決型学習）や、地域での事業創出や起業を視野に入れた学習も有益。大学にはそのような**理論と実践と対話の往還ができる学習機会**の提供が求められる。

大学と地域や企業との連携による実践の場づくり

- 地域（フィールド）において、学生が安全に、理論と実践と対話の往還（良質なチャレンジ）ができるようにするには、大学と地域関係者との連携が不可欠。そのベースとなる関係者との調整や連携関係の構築には時間と労力がかかり、それを教員個人や研究室単位の取組に任せるのではなく、**大学としての実施体制の整備及びその意義付け**が求められる。またその調整の核となる**コーディネート人材の配置や、教職員が関連する最新情報等を学ぶ機会**を設けることも必要。

変化を生み出す人材を支えるお金の流れとエコシステムの構築

- 変化を生み出す人材の育成には、それを支える**お金の流れと、チャレンジャーを応援するエコシステムの構築**も必要。チャレンジャーとサポーターを可視化し、その挑戦のプロセスを共有するなど、大学がそのような方向性（ビジョン）と具体例を示すことにより、それに**共感する企業と連携し、長期的な信頼関係**（及び企業からの出資）につなげることができる。企業と連携したリカレント教育プログラムをつくることもそのアプローチの一つ。

ローカルやソーシャルな仕事に関心のある人材のキャリア形成の支援

- ローカルやソーシャルな仕事に関心のある人材の確保には、大学を卒業して大手企業等に勤めた・勤めている人が、そのような**現場に戻って来れるような素地を大学時代にインストールしておく**ことが効果的。それには大学の同窓会やキャリアセンターが、卒業時の就職の支援だけでなく、定常的に受け皿となる企業等と情報共有し、そのような企業への学生の職業体験的なインターンシップ等をアレンジしたり、そのような人材と企業のマッチングを支援したりすることが求められる。

PBL等による学習効果の可視化

- 合理的な地域課題解決の提案（及びそれを通じた地域脱炭素化や持続可能な地域づくり）には地域や地域課題の理解の深さ（解像度）が重要であり、そのアイデアを出す力、その実現に向けた企画力や行動力、それをビジネスにつなげるスキル等も求められる。大学にはそれらを **PBL等の体験型学習プログラム**を通じ学生にインプットするだけでなく、**学習効果の自己評価ツール**等の導入により、学生の理解度や、講師やプログラム自体の評価を可視化し、それを継続的に改善していくような仕組みの導入も求められる。

協議事項：これらの提案を各大学で実施できるか？ それにはどのような施策が必要か？

(1) 学習機会の提供

- 環境・経済・社会・技術などの分野横断的な学び（学際的な教育）
- 実際の地域課題をテーマにした PBL（課題解決型学習）
- 地域での事業創出や起業を視野に入れた学習
- 理論と実践と対話の往還ができる学習機会

(2) 学生が安全に良質なチャレンジができるフィールドの提供

- 理論と実践と対話の往還（良質なチャレンジ）ができる場（フィールド）
- 大学と地域関係者との連携とその核となるコーディネーター人材の配置
- 教職員が関連する最新情報等を学ぶ機会（そのインセンティブの付与）
- 大学としての実施体制の整備とその意義付け

(3) 変化を生み出す人材を支えるお金の流れとエコシステムの構築

- チャレンジャーとサポーターを可視化し、その挑戦のプロセスを共有する
- 大学がそのような地域連携の方向性（ビジョン）を示す
- それに共感する企業と連携し、長期的な信頼関係（及び企業からの出資）につなげる
- 企業と連携したリカレント教育プログラムの立ち上げ

(4) ローカルやソーシャルな仕事に関心のある人材のキャリア形成の支援

- 卒業生が就職後、何年か後にローカルやソーシャルな現場に戻って来れるような素地を大学時代にインストールしておく（地域の受け皿となる企業等への学生の職業体験的なインターンシップのアレンジ等）
- 大学の同窓会やキャリアセンターが定期的に地域の受け皿となる企業等と情報共有し、そのような人材と企業のマッチングを支援する

(5) PBL等による学習効果の可視化

- PBL等の学習効果を評価する自己評価ツール等を導入し、学生の理解度や、講師やプログラム自体の評価を可視化し、それを継続的に改善する